- A-33 石川県能登半島における林業従事者のマダニ刺症とマダニ媒介性疾患の調査
○及川陽三郎、池田照明（金沢医大・医動物）、南 陸男、久堂寛久（石川県輪島保健所）、山村敏明・萩野雅弘（公立穴水総合病院・眼科）、高田伸弘（福井医大・医動物）

Surveys of human tick bites and tick-borne diseases among foresters in Noto Peninsula, Ishikawa Prefecture.

Oikawa Y., Ikeda T., Minami R., Kyudo H., Yamamura T., Hagino M. and Takada N.

我々は石川県能登半島において1991年から1994年までに併せて15例のマダニ刺症例を経験した。そこで今回、輪島市近隣の林業従事者を対象にマダニ刺症に関するアンケート調査を行ったところ、約11%（3/27）の人が刺咬経験があると回答したが、発熱や遊走性の紅斑をみた例はなかった。また、森林組合員75名につきマダニ媒介性疾患の指標として *Borrelia japonica* Hol4、*Rickettsia japonica* 青木株、並びにホルマリン不活化野兔病菌抗原（0.5mg/ml）に対する抗体保有状況を調べた結果、それぞれ 2.7%、6.7%および 5.3%が抗体陽性を示した。環境要因と併せ報告する。

- A-34 長野県におけるマダニ咬症の実態

内川公人（信州大・医・寄生虫）

Human tick bite cases in Nagano Prefecture, Japan

Kimito Uchikawa

1992年以降、長野県下の臨床家にライム病情報を提供しながら、この病気の前提となるマダニ咬症の紹介を依頼してきた。われわれのグループは佐久総合病院、県衛公研、信州大のメンバーで構成されているが、後2機関に寄せられる症例数が年々増加する傾向を示すことから、同様な調査を継続することに意義があると考えた。3機関に寄せられる症例内容の差、1991～1994年に把握した154症例の年齢分布と性の差、症例数とライム病様症状発症者数の比などから、県下のマダニの人体寄生頻度は相当高く、そのごく一部が医療の対象になっているに過ぎないこと、われわれはさらに受診例の一部をとらえているに過ぎないこと、などを理解した。マダニを良く知っている住民が多い反面、寄生を受けてもそれを正しくマダニと見極めることのできない人々がいることも分かってきた。